

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4098000013		
法人名	医療法人 博愛会		
事業所名	グループホームまごころ		
所在地 (電話番号)	福岡県京都郡苅田町大字提字唐松2781番地 (電話) 093 - 436 - 0743		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年3月10日	評価確定日	平成22年4月28日

### 【情報提供票より】(平成22年2月26日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8.4 人	

#### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1 階建て
------	------------------

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円 (1,000円/日)	その他の経費(月額)	(水道光熱費) 300円/日	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有(4年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

#### (4) 利用者の概要 (2月26日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	80 歳	最高	92 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	桑原医院・行橋記念病院・小波瀬病院
---------	-------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームまごころ」は、広い敷地の中に同法人の老人保健施設やデイサービスとともにあり、広い駐車場は地域の盆踊りにも活用され、入居者全員が参加している。隣接する同法人施設の理学療法士によるアドバイスを受けながら、ホーム内では個別のリハビリを日常生活の中に取り入れており、レクリエーションでも卓球などの運動を行っている。職員の元気な声に励まされながら、入居者の方々が一生懸命取り組む姿があり、微笑ましい光景がみられた。また、4月より隣接して保育園が開設され、日常的な交流を楽しみにしており、今よりも更に入居者・職員の笑顔が増えていくことが予想される。昨年、管理者・ケアマネジャーの交代があり、新体制でサービスの向上に取り組んでいる段階である。法人としてのスケールメリットを活用したバックアップにも期待しながら、地域における福祉拠点として、今後の充実・展開が楽しみな事業所である。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価以降、管理者の交代があり、課題を明確に捉えながらサービスの質の確保に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホームの課題を明確に示し、客観的な視点からの自己評価が作成されている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	新型インフルエンザの影響はあったが、会議と家族会を同日に行うことで家族の積極的な参加を促している。区長・民生委員・苅田町介護を考える会代表・社会福祉協議会事務局長・地域包括支援センター社会福祉士等の参加を得て、意義のある開催となるよう取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族会を設置しており、運営推進会議と同日開催するなど工夫しながら、家族意見の収集に努めている。ホームでのイベント時には多くの家族の参加があり、一緒に食事しながらつながりを深め、入居者と家族、家族と職員との関係性を大切にしたい支援に取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域に根付いた活動・交流となるよう取り組んでいる。地域の盆踊りに法人駐車場を提供し入居者全員で参加したり、公民館行事等に参加している。日常的にも散歩の途中での会話や、収穫物を頂いたり分けたりすることもあり、自然な形で交流も行われている。

2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	開設時に職員全員で話し合い作られた「優しい心を大切に、温かい家族になります」「穏やかでゆったりとした日々を共に歩みます」をグループホーム独自の理念として、掲げている。		以前より検討してきた、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念の作成に向けて、具体的な取り組みに期待します。地域との関係性や地域生活の継続を具体的に示していくことにより、関係者間での共有・実践へとつなげて欲しい。
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念は毎日の朝礼時に唱和をしており、日々確認し、共有を図りながら実践に向けて取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	自治会に加入しており、地域に根付いた活動・交流となるよう取り組んでいる。地域の盆踊りに法人駐車場を提供し入居者全員で参加したり、公民館行事等に参加している。日常的にも散歩の途中での会話や、収穫物を頂いたり分けたりすることもあり、自然な形での交流も行われている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	ホームの課題を明確に示し、客観的な視点からの自己評価が作成されている。管理者は昨年外部評価以降の就任となり、サービスの質の向上や環境整備に、真摯な姿勢で取り組もうとしている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	新型インフルエンザの影響はあったが、会議と家族会を同日に行うことで家族の積極的な参加を促している。区長・民生委員・苅田町介護を考える会代表・社会福祉協議会事務局長・地域包括支援センター社会福祉士等の参加を得て、意義のある開催となるよう取り組んでいる。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

## グループホーム まごころ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	地域包括支援センターや社会福祉協議会が主に相談窓口となっている。市町村担当課へは更新手続き等に出かけている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	権利擁護に関する制度について、法人で行われる研修に参加している。これまでにホームとして制度活用に向けて支援を行った実績はないが、資料等を整備し、法人内の連携による支援体制を整備している。今後は職員全員の理解を深め、地域に向けての情報発信にも期待します。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	入居者の「当日の状況」を作成し、日々の暮らしの状況や、健康状態(体重・体温・血圧等)を記載して、家族に送付しており、かかりつけ医への受診時にも役立っている。家族の来訪も多く、生活状況や金銭管理について報告している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	家族会を設置しており、運営推進会議と同日開催するなど工夫しながら、家族意見の収集に努めている。ホームでのイベント時には多くの家族の参加があり、一緒に食事しながらつながりを深め、入居者と家族、家族と職員との関係性を大切に支援に取り組んでいる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	職員の半数は1年毎の契約社員であり、時期をずらしながら入・退職を繰り返している。入居者への配慮はホーム全体で行っている。		入居者・職員のなじみの関係性を大切にし、継続性を重視したサービスの提供が求められる。法人として、サービスの質の確保に向けた積極的な支援を行い、入居者・家族の安心へとつなげて欲しい。
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	法人としての採用となり、管理者等も今年度からの勤務となる。個々の職員はそれぞれの思いを持って勤務しており、管理者も働きやすい職場環境となるよう配慮に努めている。		少しずつ職員の固定化が図られており、今後も職員のモチベーションの確保や向上心を持って働くことができるよう、法人としての積極的なバックアップに期待します。また職員体制の安定化をサービスの質の向上につなげて欲しい。
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

## グループホーム まごころ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	隣接する同法人施設での研修参加や、外部研修への参加を自主的に行い、ミーティング等において職員間での共有に努めている。高齢者虐待防止や身体拘束について、法人としての研修が行われている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	2ヶ月に1回、隣接する同法人施設での「勉強会」に参加している。またミーティングにおいて伝達研修を行い、職員間での共有に努めている。外部研修参加時には法人としてのサポートがあり、資格取得についても勤務調整等を行い支援している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	2ヶ月に1回、京築地区のグループホーム連絡協議会に参加し、交流や情報交換の機会を持っている。他グループホームで行われる芋ほりに参加するなど、ネットワークを活かした交流がある。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>2. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前には病院や自宅など訪問して、面接を行うようにしている。意向や状況を確認する事が大切であり、入居後も家族の協力を得ながら、少しずつホームに慣れてもらえるように努めている。家族の来訪も多く、入居者の大きな安心感につながっている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	共に過ごす家族としての関係性を大切にしており、畑仕事や調理などを共にし、昔話を聞きながら、生活の知恵を教えてもらっている。理念にも、温かい家族として、穏やかでゆったりとした日々を共に歩んでいくと示しており、一人ひとりを理解していくことに努めながら、実践に向けて取り組んでいる。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			



## グループホーム まごころ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時のアセスメントでは、本人・家族以外にも、様々な関係者より情報を収集し、生活暦や職歴等が詳細に記載されており、職員間での共有を図っている。入居後も一人ひとりの意向に沿った日々の暮らしとなっているかを振り返りながら、言葉や表情から、くみ取るよう努力している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントからニーズを抽出し、本人・家族の意向を踏まえ、職員間のミーティングを実施し介護計画を作成している。主治医の診療情報提供書を参考にして、隣接する老人保健施設の理学療法士の助言を受け、個別のリハビリ計画が丁寧に組み込まれている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回の見直しを行っている。支援経過を記載しながら現状の把握に努めており、変化がある際には、家族や職員間での話し合いを行いながら見直しを行っている。状況の変化に応じてかかりつけ医へ連絡を行い助言を受けている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>法人内の連携により、理学療法士や管理栄養士等のアドバイスを受けながら、日々のリハビリや栄養管理に活かしている。通院介助や冠婚葬祭への参加時等にも、柔軟な対応を行っている。入院時には、医療関係者との連携や面会による関係性の継続を図りながら、早期退院に向けた働きかけを行っている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の意向によるかかりつけ医への受診を支援している。複数の協力医療機関があり、適切な医療活用となるよう支援している。</p>		

## グループホーム まごころ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期のあり方について、運営推進会議や家族会において説明し、話し合いを行いながら家族との方針の共有を図っている。ホームとしてできる限りの支援を行いながら、隣接する老人保健施設や医療関係者との連携により、状況の変化に対応している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの呼びかけ方や、排泄・更衣時の対応について、尊厳を損ねない対応となるよう努めている。記録等、個人情報については施錠できる場所に保管し、取り扱いには十分配慮している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	ある程度のホームとしての予定はあるが、就寝時間等はそれぞれの自由であり、強制とならないように配慮している。選択し自己決定できる場面作りに配慮しており、寄り添いながら一人ひとりの思いをくみ取れるよう支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	昼食・おやつは隣接する同法人施設から提供されており、朝・夕食はホームでの調理となる。下ごしらえやテーブルで出来る事などは、入居者にも参加してもらっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	月・木・土の週3回の入浴日の設定はあるが、無理強いとならないよう工夫しながら対応している。季節感を感じてもらえるよう、柚子湯などを楽しむこともある。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

## グループホーム まごころ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	朝の掃除は、一人ひとりの力を発揮してもらいながら、全員で行っている。掃除機をかける方・椅子を拭く方等、役割分担を行っている。男性入居者も大根おろしをする時など、積極的に名乗をあげてくれる。充実しているアセスメントを活かして、継続して暮らしの活性化に向けた取り組みに期待します。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	新型インフルエンザの影響もあり、例年と比較して外出行事を控えているが、散歩や買い物(週2回)等に出かけている。隣接する施設の車両を活用し、全員での外出が多く、個別の外出については家族の協力を得ている。4月より隣接して保育園が開設され、散歩がてらの交流を楽しみにしている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関は全ての家族の了解を得て、施錠を行っている。居室ドアには鍵はついていない。施錠することを常態化とせず、家族会や運営推進会議、職員ミーティング等で話し合いを行いながら、継続して課題として欲しい。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署の協力を得ながら、昼夜を想定した避難訓練を、年2回実施している。隣接する同法人施設との協力・連携体制の構築には取り組んでいるが、地域への働きかけについては今後の課題としている。		運営推進会議等において、災害時の地域との協力体制についての働きかけを行っていくことが求められる。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	隣接する同法人施設の管理栄養士によるアドバイスを受けながら、入居者の嗜好や栄養バランス等に配慮された献立が作成されている。食事・水分摂取量を把握・記録し、一人ひとりの状態に応じた、柔軟な支援を行っている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

## グループホーム まごころ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	毎朝全員で掃除を行っている。リビングには、TV・テーブル・寝転ぶ事ができるソファ等が配置され、2面からの採光により、明るく開放感のある空間となっている。対面式キッチンからは調理の際の音や匂いが伝わり、また柚子湯を楽しむ等、生活感や季節感を感じることができるよう工夫している。		
		共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	ベッドは一人ひとりの状況に応じて、様々なタイプが用意されている。自宅より使い慣れた家具や家族の写真が持ち込まれており、安心して過ごせるよう配慮されている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			